

ガード・アンド・プロテクト 2019 *Guard and Protect 2019*

March 4, 2019

By Senior Airman Matthew Gilmore
374th Airlift Wing Public Affairs

隊員たちはいつものように基地を巡回する。雨音は絶えず、車の窓は曇り続ける。着信を受けたその時だ。声の主はいつもの馴染みのある声とは限らず、それは同盟国の仲間からの着信だった。第374憲兵中隊の憲兵にとって、それは大事な着信だった。

「着信を受け、応答する訓練を行っている。相手が同僚か陸上自衛隊員かに関わらず、互いに駆け付けけることを演習を通して行った」と第374憲兵中隊アレック・ウィリアムズ一等空兵は述べた。

演習は「ガード・アンド・プロテクト2019」と呼ばれるもので、緊急事態が発生した際に日本各地の施設や地域の安全を適切に確保するため、それぞれの主要な在日米軍基地と相対する陸上自衛隊部隊が組んで訓練を行うもの。

「ここ横田では、御殿場・板妻駐屯地の陸上自衛隊第1師団第34普通科連隊と組み、2月27-28日の間、演習を行った。陸自の仲間がフライトライン付近に戦略配置し、我々も同様に行った。そして相互運用性を試すためにいろいろな状況を想定して演習を行った」と第374憲兵中隊基準評価長ジュリウス・ハワードIII曹長は述べた。

チームは狙撃射撃に挑んだり、ゲートの保安や化学・生物・放射能(CBRN)防衛を想定した訓練に挑みながら、防衛戦闘態勢(DFP)を担う隊員たちは、互いを信頼し協力しながら横田の安全確保に努めた。

「コミュニケーションを図るだけでなく、パートナーと調整する力を確立したかった。その点において演習は成功したと考えている」とハワード曹長はコメントした。

その調整力を試すことで、第374憲兵中隊の憲兵は、陸自のメンバーたちとより信頼関係を築くことができた。

「同盟国の仲間と演習する時はいつも、結束がすべてだ。演習を通じて信頼関係を構築する。互いの理解をより深めるため、これまでの演習で我々が培ったことを積み重ねている。陸自のメンバーは、いかに彼らが頼れる相手かということを示してくれた。我々も同様に信頼を与えられたことを願っている。この基地を守るために彼らを必要とするならば、連携が図れることを確信している」と第374憲兵中隊パトロール担当クリフトン・カーター上級空兵は述べた。

